

## あいさつ 一致協力することの重要性を共有

鎌田 俊彦（文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 課長）



シンポジウムのあいさつに登壇した文部科学省研究開発局地震・防災研究課の鎌田俊彦課長は、シンポジウムの主題である「今、改めて首都直下地震と向き合う～観測データを相互利活用するための課題～」を踏まえ、「データ連携を進めるためには、技術的な課題の解決だけではなく、データを提供する側と受ける側の双方が、課題解決に向けて一致協力することの重要性を共有することが大切」と述べました。

また、この日のシンポジウムを通じて、首都圏レジリエンスプロジェクト・データ利活用協議会による課題への精力的な取り組みが、関係各界の「さらなる相互理解」と、国全体の「レジリエンス総合力向上」につながることに期待を示しました。